

**中学生に行った生活習慣調査、血液一般検査
と学校歯科健診結果との関連について**
—むし歯ハイリスク児と関わるために—

○旭爪伸二

わかば小児歯科（宮崎市）

【緒言】学校歯科健診の場でむし歯ハイリスク児に遭遇することは少なくない。担任教諭や養護教諭と相談してもスムーズに解決策を見出すことは難しく、それには学校生活や生活習慣と合わせた指導が求められていることが背景にあると推察される。今回、中学2年生の生活習慣調査、血液一般検査と学校歯科健診結果とを比較する機会が得られたので報告する。

【対象及び方法】宮崎県内の中学校に在学していた平成16年度の2年生177名を対象に学校内で10月に実施したアンケート式生活習慣調査、血液一般検査の結果を提供していただき、同年度4月に実施した学校歯科健診結果と比較検討した。過去の学校歯科健診記録から、Cと判定された永久歯が2本以上あり、同部位同名歯が3年以上継続してCと記録された年数を「未処置歯継続年数」とし、むし歯ハイリスク要因として検討した。

【結果と考察】Peasonの相関係数（ノンパラメトリック）で「未処置歯継続年数」と有意な関連を示したものは、「歯垢」、「未処置歯数」（ $P<0.01$ ）であった。「起床時間」との間では「歯垢」、「歯肉」の重症度と負の相関（ $P<0.01$ ）を認めた。「歯みがき回数」と「T-CHO」の間でも相関（ $P<0.05$ ）が認められ、背景に生活習慣などの共通要因があるものと推察された。